

4

スタートカリキュラム実践事例

【入学直後を考慮した指導の工夫】

事例 1	「はじめまして がっこう はじめまして ともだち」(生活)	4月第1週・・・114
2—①	なかよしタイム、「がっこう せいかつ すたあと」(生活)	4月第1週・・・116
2—②	「げんかん たんけんに いこう」(生活)	4月第1週・・・118
3	「いい てんき」(国語)	4月第1週・・・120
4	「うたって おどって なかよくなろう」(音楽) 「きゅうしょくの じゅんびをしよう」(特別活動)	4月第1週・・・122
5	「おはなし たのしいな」(国語) 「きゅうしょくの じゅんびをしよう」(特別活動)	4月第2週・・・124

【5月の連休明けを考慮した指導の工夫】

6	「いくつといくつ」(算数) 「きゅうしょくの じゅんびをしよう」(特別活動)	5月第5週・・・126
7	「たのしいな ことばあそび」(国語) 「きゅうしょくの じゅんびをしよう」(特別活動)	5月第5週・・・128
8	「がっこう ひみつ たんてい」(生活) 「ぶんを つくろう」(国語)	5月第6週・・・130
9	「にんじゃ しゅぎょうを しよう」(体育)	5月第8週・・・132
10	「くまさんと ありさんの ごあいさつ」(国語) 「ねこ、ねっこ」(国語)	5月第8週・・・134
11	「体力テストの れんしゅうを しよう」(体育)	6月第10週・・・136
12	「さいてほしいな わたしの はな ～せわを しよう～」(生活)	6月第10週・・・138
13	「めぎせ!みずあそび めいじん!」(体育)	6月第12週・・・140

【夏休み前を考慮した指導の工夫】

14	「としょかんと なかよし」(国語)	7月第13週・・・144
15	「なつやすみを たのしく すごそう」(生活)	7月第14週・・・146
16	「たのしかった ことを つたえよう」(生活)	7月第15週・・・150

【夏休み後を考慮した指導の工夫】

17	「ききたいな ともだちの はなし」(国語)	9月第16週・・・152
18	「まいにちの せいかつを ふりかえろう」(生活)	9月第17週・・・154
19	「さいてほしいな わたしの はな ～たねが できたよ～」(生活)	9月第17週・・・155





【冬休み前後を考慮した指導の工夫】

20—①	「みんなの にこにこ 大きくせん ～ふゆやすみ まえ～」(生活)	12月第31週・・・156
20—②	「みんなの にこにこ 大きくせん ～ふゆやすみ あと～」(生活)	1月第33週・・・157
21—①	「もうすぐ みんな 2年生 ～ようこそ、わたしたちの 学校へ～」(生活・算数・図工)	2月第39週・・・158
21—②	「もうすぐ 小学1年生 ～小学校って どんどころかな～」	・・・159
22	「もうすぐ みんな 2年生 ～ありがとう、1年生の きょうしつ～」(生活)	3月第43週・・・160

事例1 登校時から2日目1・2校時に「なかよしタイム」のある例

【1日の学校生活の実際：学び手である児童を中心に構成】

第1学年	4月第1週 入学2日目	はじめまして がっこう はじめまして ともだち
------	----------------	-------------------------

時刻	類型	学習活動	◇予想される児童の姿 スタートカリキュラムの考え方を踏まえた ★環境の構成・教師の配慮事項や指導の工夫
8:10		○登校する。 ○ランドセルを片付ける。 ○連絡帳や提出物を出す。	<p>★朝の支度などが自分でできるように、目で見て分かる表示をしておく(絵と短い文字など)。 ★教室で出迎える。笑顔で迎え、登校したうれしさを感じられるようにする。支度に時間のかかる児童を助ける。</p> <p>◇不安はあるが、登校してからの手順が少しずつ分かる表示を見ながら自分で朝の支度をしたり、友達と好きな活動や遊びをしたりする。</p> <p>★一人一人フルネームで呼名し、元気がどうか聞く。 ◇教師が自分の名前を呼んでくれてうれしい。「○○さん、元気ですか？」に、元気に「はい、元気です。」と応答。 ★まだ不安な気持ちで登校している児童がいることに配慮し、前日までの「なかよしタイム」の活動を繰り返す。 ◇先週と同じ活動の流れなので安心感や見通しをもつ。 ★教師も一緒に活動に入る。 「先生や友達と過ごすのは楽しい」と感じられるような雰囲気作りをする。</p>
8:30		○持ち物の整理・授業準備 ○好きな遊びや活動をする。 (飼育栽培物の観賞・観察、読書、折り紙、自由帳に描く)	
8:45 1時間目 なかよし タイム②		○朝の会 ・先生の話・健康観察 ・読み聞かせ ・歌・手遊び・リズム遊び ・じゃんけん列車 など	
※ 教科のねらいと合致していれば、学活1/2、国語1/2、生活1(または音楽1/2、体育1/2)でも可。			
3時間目 国語1/2		「よろしくね」 ○友達同士で自己紹介をする。 ・振り返りをする。	<p>◇新しい友達に名刺カードを渡して自己紹介をする。自分の好きなこと(もの)を話したり、名刺カードに書かれている絵の話をしたり聞いたりする。 ★新しい友達の名刺カードが何枚になったか数えさせる。カードが少なくても休み時間などにできることを話す。 ★担任以外にも、いろいろな先生が見守ってくれていることに気付かせる。今後、養護教諭・栄養士・校長・副校長・支援員なども名刺カードが交換できるように教室に準備し、児童にも伝えておき、見通しや期待感をもたせる。 ★全教職員に協力を依頼しておく(学校探検時でも可)。 ★できるだけ多くの児童が園で経験してきた歌を選択して弾く(CD等でも可)。 ◇知っている曲なので安心して自信をもって挙手する。 ★多くの児童が挙手できるように、同じ答えだった児童にも挙手させて当たった喜びを味わわせる。</p>
※または 生活1/2			
音楽1/2		「うたでなかよしになろう」 ○歌クイズをする。 ・チューリップ ・ちょうちょう ・ぞうさん等 ・校歌を聞いたり口ずさんだりする。 ○「さんぽ」を歌う。 ・楽しんで歌ったり動いたりする。	
◇★教科書のページを開き、絵を見て楽しいイメージをもつ(もたせる)。園等でも経験している児童が多いので、始めから曲を弾き、みんなで歌い出す。 ◇★散歩するイメージで、教室内を元気に歌いながら歩く。 略			
4時間目			略
帰りの会		・お話タイム、しりとり ・じゃんけん列車、オノマトペ 「ハイタッチ」等で下校 など	<p>※全授業終了時(または帰りの会)、週末 等 ★本日の授業の最後は、翌日(金曜日の場合は次週)の登校も楽しみにできるよう、短時間で友達や教師と楽しく関わられる活動を組み込む。</p>

<指導のポイント>

安全・安心

楽しさ

- ・ 幼児期の生活に近い活動をする
- ・ 分かりやすく学びやすい環境の工夫 (P102参照)
- ・ 児童と担任を支える学校体制 (TT)
- ・ 人と関わる楽しい活動

主 協 言



入学3日目：1・2校時「なかよしタイム」(TT)の例

オノマトペ活用「じゃいくよ、皆と一緒に「1、2、3、4、5、びよん、びよん」「楽しい!!」
 ○○園と同じような場の設定で、お話を聞いたり感想を言ったりする。

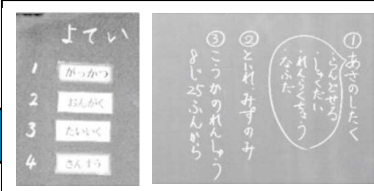
○ それぞれの学級で「学級の友達と仲よしになろう」(国・学活)



お話を聞こう(国)
「いなばの白うさぎ」



「先生じょうず!」
主体的にできるようにリードします。



表示を見て準備
・ 登校したら、朝の支度・好きな遊び
○ 短い言葉で書きます。



オープンスペースで
歌・手遊び・ゲーム



じゃんけんポン



負けたら後ろへ

○ 説明は短く分かりやすく。具体的な動作をしてみせることが大切。



「貨物列車シュシュシュ」を歌いながら移動、じゃんけん。
○ 担任やそのほかの先生も一緒になって遊びます。

○ オープンスペース TTで「学年の友達と仲良しになろう!」(音楽)



入学2週目(9日目)2校時「わくわくタイム」の例

安心

○ 「よろしくね」(国語または生活・両方の教科の内容に合致)

楽しさ

新しい友達と交換するが、難しい児童には、最初は知っている友達と交換する練習をしてもよいことを伝える。



「わたしは、○○○○です。よろしくね。」
「好きな食べものは、..」



【互いに自己紹介】
・ 時間をゆったりとり、急がせない。
・ 枚数を競わせない。



【一人一人と信頼関係】
集団を見ているが、一人一人も見守る姿勢

○ 「1週間過ごして楽しかったことは何ですか やりたことは」(学活)



「休み時間に外で遊んだこと」
「給食がおいしい」



「行ったことがない部屋に行きたい」



事例2-①

第1学年	4月第1週 入学3日目	はじめまして がっこう はじめまして ともだち
------	----------------	-------------------------

なかよしタイム・生活科学習指導案

単元名	なかよしタイム(授業時数以外の教育活動) 「がっこう せいかつ すたあと」(生活)
本時のねらい	○先生や友達と知っている歌やリズム遊びをしたり、お話を聞いたりして楽しむ。 ○玄関を探検し、靴箱への靴の入れ方を考え、ルールを守ろうとする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎入学3日目であり、前日授業を始めたばかりの入門期である。児童は様々な園から入学し、互いをよく知らない。担任や友達と楽しい時間を共有していくことで、学校生活や人に慣れ、学校が楽しい場所であると感じさせることに重点を置く。 ○学習活動の時間配分の工夫:2単位時間続きで行い、児童の状態を見ながら、音楽などの楽しい活動、呼名と健康観察、学校探検の活動を組み合わせる。 【なかよしタイム→わくわくタイム】 【なかよしタイム】 ○幼児期にどのような歌や手遊び・リズム遊び、絵本や紙芝居などを経験したかを集約し、多くの児童が知っている内容で行い、全員が安心して楽しめるようにする。 【生活科(わくわくタイム)】 ○入学した直後、様々な学校生活の決まりを教師主導で児童に指導することが多くならないように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、児童の主体的な活動になるような指導の工夫をする。

展開例(1・2校時)

	主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
一校時	<p>【なかよしタイム】</p> <p>1 朝の会をする。 ・先生の話聞く。</p> <p>・呼名と健康観察 「はい、元気です。」</p> <p>2 歌・手遊び・リズム遊びなどを行う。 ・歌を歌う。 「この歌、知っているよ。」 ・手遊び 「たのしい。」 「これ、できるよ。」</p>	<p>○始業前にトイレに行ったかを確認し、習慣化させていく。</p> <p>★児童の興味・関心のありそうな楽しい話(面白かったり驚いたり感動したりする話/例:道端で見かけた植物の話など)をして、集中して聞けるようにする。</p> <p>★今日の予定(見通し)を伝える(多くの園で、幼児期の終わりには経験している程度に簡単に行う。)</p> <p>★朝の支度ができていない児童へは、安心できる言葉掛けをする。 ○「○○さん」など、全員同じ呼び方にする(人権に配慮する。)</p> <p>★緊張と恥ずかしさで「元気です。」が言えない児童に配慮し、温かい雰囲気で行う。無理に言わせずに、短時間で終わらせる。 「せんせいとおともだち」「ドキドキドン!一年生」</p> <p>★1曲目で隣の友達や先生と手をつないだり、にらめっこをしたりして緊張をほぐして、楽しく歌えるようにする。 「むすんでひらいて」「トントントンアンパンマン」</p> <p>★幼児期に親しんできた手遊びやリズム遊びを行い、緊張をほぐす。 「昆虫太極拳」「しゅりけんにんじゃ」</p> <p>★児童が思い切りできるように、教師自身も楽しんで踊り、児童の手本になる。</p> <p style="text-align: center;">《 知らない児童同士の集団から、一体となって楽しめる集団へ 》</p>
二校時前半	<p>・リズム遊び 「おもしろいね。」 「一緒に踊ろう!」 「どこ(の園)から来たの?」</p> <p>・読み聞かせ</p> <p>【生活科(わくわくタイム)】</p>	<p>【緊張しながら踊りをスタート】</p> <p>【上着を脱ぎ、みんな生き生きと】</p> <p>★読み手(教師)とやり取りをしたり、初めて聞く言葉が載っている絵本を選んで読み聞かせをしたりして、話に集中できるようにする。 『エンとケラとブン』『はるじゃのばけつ』</p> <p>◆教師や友達と歌やリズム遊びをしたり、お話を聞いたりして、楽しむことができる。</p> <p>事例2-②へ (P118~119参照)</p>



<指導のポイント>

安全・安心

楽しさ

- ・安全な環境の工夫
- ・幼児期の経験からの安心感
- ・新しい友達や教師と一緒に活動する楽しさ
- ・幼児期に経験した遊びや身体を動かす遊びの楽しさ
- ・新しい教師や友達と仲良くなれる楽しさ

協 言
主 言
協 言

安全・安心

■今日の予定を伝える

- ・その日の予定を伝えることで、児童が見通しをもち、同時に安心感をもつことができる。

■呼称を統一する

- ・朝の会での健康観察のときは、全員同じ呼び方で呼名する。同じ呼称で名前を呼ぶことで、安心感と存在感をもたせる。
- ・緊張で必要な言葉が言えない児童には、次の日があることを伝え、安心感をもたせる。
- ・全員の体調をきちんと把握する。

■オープンスペースなどを活用した安全な場の設定

- ・角のない広い場を設定する。
- ・走ってけがをすることのないように、空き時間をつくらず、簡単にできる活動を続けて行う。

■幼児期に近い活動

- ・幼児期に経験したことのある、手遊び、歌やリズム遊び、読み聞かせを行い、安心感をもたせる。

■手本を見て活動できる

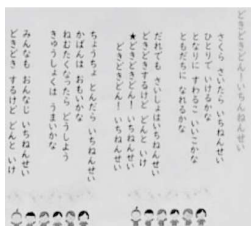
- ・踊り方が分からない児童には、教師の踊りを見て、まねをして踊れるようにする。
- ・指導者は、曲や踊りをしっかり覚えておく。
「知らない曲だけど、楽しいな。」

■分かりやすい掲示

- ・視覚に訴える掲示



机の整理の仕方が習慣化するよう、視覚に訴える図を入門期に常掲



児童が読みやすい分かち書きの掲示物

楽しさ

■初対面でも仲良くなれる工夫

- ・教師や新しい友達と一緒に、歌や手遊びをしたり、踊ったりする。
- ・示範する教師が夢中になり、楽しく踊る姿を児童に見せることで、児童は緊張がほぐれ、児童自身も興味・関心と意欲をもって踊るようになる。踊っているうちに一体感が生まれてくる。
「一緒に踊ると楽しいね。」
「名前、何て言うの？」

■幼児教育の指導者と連携する

- ・幼稚園、保育園、こども園の教師・保育者と連携して、幼児期に体験したものを選ぶ。
- ・幼児期に知っている手遊びや歌を取り入れたり、初めての曲でも面白い動きや音のあるものを選んだりする。
「この曲知っているよ。」

「おすすめの遊びや本など」

手遊び	リズム遊び・歌	絵本・紙芝居
・せんせいとおともだち	・昆虫太極拳	・あいうえおうさま
・アブラハム	・おでん体操	・いやいやえん
・おちゃらか	・ラーメン体操	・はじめてのおつかい
・じゃんけんポイポイ	・エピカニクス	・めつきらもつきらどおんどん【シリーズ】
・雷どんがやってきた	・青い空に絵をかこう	・おしりたんてい
・八百屋のお店	・にじ	・ぼけぼけぼけたくん
・やきいも	・ありがとうの花	・ぐりとぐら
・アルプス一万尺	・にじのむこうに	・エルマー
・あたまかたひざポン	・ハッピーチルドレン	・ともだちや
	・さんぼ	

(令和4年度開発委員会調査)

■児童の興味を引くような、初めて聞く言葉や面白い言葉の題名の絵本を選ぶ。

- 『「はるじゃ」って何だろう。』
- 「変わった名前だな。」

事例2-②

第1学年

4月第1週
入学3日目

はじめまして がっこう はじめまして ともだち

生活科学習指導案

単元名	「げんかん たんけんに いこう」
本時のねらい	○靴箱への靴の入れ方を話し合って決め、自分たちで決めたルールを守ろうとする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>◎小学校入学当初に、学校で身に付けるべき学習・生活習慣は数多くある。授業開始2日目の児童たちは、学校の様々な新しい人・物・ことに興味・関心をもつとともに、幼児教育で培ってきた資質・能力を土台に、それぞれの児童なりの思いや願いを表出し、楽しく学びたいと願っている。そこで、幼児期からの滑らかな接続を意識し、教師主導の指示的な指導にならないように、また児童が主体的に活動し、楽しい授業となるような指導計画を立てる工夫をする。【わくわくタイム】</p> <p>○玄関探検では、多くの園に未設置であったサーモグラフィーのほか、児童にとって目新しい物、興味・関心のあることについて知らせたり、使い方の確認をしたりする(靴箱の使い方についての活動の時間を確保するため、他の内容の指導に時間がかかりそうな場合は短時間でやり、改めて後で実施する。)</p> <p>○上学年の靴箱を見学し、気付いたことやよい点を伝え合う活動をする。その上で、自分たちの靴箱の靴の入れ方を上学年と比較検討させ、自分はどのようにしたらよいか、個々の思いや願いを出し合う。自分たちで決めたルールを守る態度を育成する。</p>

展開例(2校時後半)

	主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
二校時後半	<p>3 トイレに行く。 ・トイレや流しの使い方を確認する。 「忍者になって静かに行こう。」</p> <p>4 「玄関探検」に行く。 ・2列になって移動する。</p>	<p>○トイレや流しの使い方は、授業1日目(前日)に、児童の主体性を生かしながら学ばせている。本日から繰り返し学び、習慣化を図っていく。 ★他の学級が授業中の時は、授業中の移動や会話は、できるだけ音を立てずに静かに行うことを認識させる。 ★幼児期の忍者修行の遊びを生かして、安心して楽しみながら活動させる。「忍者になって動こう。」と促し、忍び足でトイレに移動、全員がトイレから戻り、そろったことを確認する。</p>
生活	<p>・玄関にある設備などを知る。 ・他の学年の靴箱の様子や靴の入れ方を観察する。 「6年生は靴のかかところがそろっているね。」 「手前にそろえてきれいだな。」 「奥に入れているのもある。」 「どの靴箱も手前が多い。」 ・自分たちの靴の入れ方を考える。 「6年生のお兄さんやお姉さんたちと同じにしたい。」 ・学校には、みんなの決まりがあることに気付く。</p>	<p>○忍び足で玄関に向かう。2列になり、安全に移動する。 ★集合・整列、廊下の歩行などのルールについての指導は細かく行わず、列が整っていないくてもよい。集団から遅れそうな児童に配慮する。特に階段はゆっくりと安全に降りるようにする。補助者が列の後ろに付くとよい。 ★サーモグラフィーの使い方を確認し習慣化を図る。短時間で終わらせる。 ○上学年の靴の入れ方を第6学年から順に観ていき、気付いたことを発言させる。 ★まだ授業2日目の朝であるので、児童が自分の思いを口々に言っても注意せず、聞き取れればよい。 また、同時に皆が話してしまうと分かりにくいことを経験させてから、「挙手して順番に話す」ことを投げ掛け、ルールにしていく。</p> <p>○教師が決めたことを指示するのではなく、自分たちで考えさせる。児童それぞれの思いや願いを表出させ、その結果をルールとして決める(上学年は学校の決まりどおりに行っている児童が多いため、第1学年も同じ結果になることが予想される。)。自分たちで決めたことに満足感をもたせ、ルールを守る意識や意欲を高めていく。</p> <p>「みんなすごいね! 4月は1年生の自由なことを校長先生にお願いしていたのですが、みんなが決めたことは、学校の決まりと同じでした!」</p> <p>◆靴箱への靴の入れ方を考え、自分たちで決めたルールを守ろうとする。</p>



「そろっている」「奥に入れると出しにくい」口々に思いを話す。幼児期の経験から、挙手する児童もいる。

<指導のポイント>

安全・安心

楽しさ

成長

- ・安全・安心を考慮した指導の工夫
- ・幼児期の遊びの経験からの安心感や自信・意欲 主
- ・ゲーム性のある活動の楽しさ 主
- ・未知の場所を訪れるワクワク感
- ・気付き、興味・関心、意欲、協働 主 協 言
- ・自分の思いや願いを表出できる話し合い活動 協 言

安全・安心

■人の迷惑にならないように静かに言動

- ・授業中の移動の仕方・廊下や階段の安全な歩行
- ・教師の話をよく聞いて行動
- ・忍者の修行の遊びを知らない児童には「友達のマネっこをしよう。」と促す。
「忍者の修行は、〇〇園でもやっていたから、音を立てないで歩けるよ。」



授業2日目朝の児童の様子：整列や右側歩行など、集団行動は難しい。多くの園から入学した児童の集団は列というより団子状態になるが、仲良くなれそうだ。

■安全に関する指導を早い時期に行う

- ・けがの防止：階段をよく見て安全に降りる。
- ・園では1階での生活であったり、エレベーターで2階以上の保育室へ移動したりする生活により階段の使用経験が少ない児童もいる。

例年、入学直後には、階段を降りる際に手すりにつかまったりゆっくり降りたりするなど、不安を覚えている様子の児童がいる。小学校の階段は、園時代よりも少し高い傾向がある(小学校は蹴上16cm以下：建築基準法)。小学校の階段を静かにゆっくり昇降することで、安全を確保して安心感をもたせて、徐々に慣れさせていく。

「まだ降りてこない人がいるから、ここで待とうね。」



- ・サーモグラフィーの使い方を確認

入学式当日と2日目(前日)は、保護者や教職員が補助していたが、本時の「玄関探検」では、児童に装置の使い方を改めて指導し、使い方や注意事項を確認する。

楽しさ

■幼児期の遊びを生かし、楽しみながら学ぶ授業

- ・本授業2時間続きの指導計画の工夫
前半で行ったゲームやリズム遊びなど、児童同士が仲良くなってから行う「わくわくタイム」
- ・「忍者になって移動」のように、ゲーム感覚で活動し、身に付けていく「学校生活での決まり」
- ・「玄関探検」という名称へのワクワク感と、児童の思いや願いが表出できる主体的・協働的な活動

成長

■興味・関心、協働、話し合い活動

- ・小学校の玄関と園との違いに関心をもつ。
- ・サーモグラフィーの使い方を知る。
- ・みんなで共通の目的に向けて協働し、話し合っ(時には折り合いを付けて)ルールを決め、守ろうとする態度を養う。



←「〇年生は、靴を奥に入れて
いる人がいるね。」



↑ みんなの考えを聞きルールを決める。
「手前の方が取り出しやすい。」

↑「僕たちの靴箱は入れ方が
いろいろだ。」

《幼児期から経験している「ルールづくり」》

○児童は、幼児期に様々なグループでの遊びや活動で、教師・保育士とともに、話し合い活動をしたり、ルールを決めたりしてきた経験がある。幼小の円滑な接続のため、小学校入門期においても学校の決まりを教えるだけでなく、できる範囲で児童の主体性を生かしたルールづくりをさせたい。

事例3

第1学年	4月第1週 入学5日目	はじめまして がっこう はじめまして ともだち
------	----------------	-------------------------

国語科学習指導案

単元名	「いい てんき」
本時のねらい	○絵から見付けたことを話したり、聞いたりすることができる。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>◎新型コロナウイルス感染予防対策で、4・5月は自宅学習が続き、6月から授業開始となった。本時はその2日目、分散登校により学級の半数の児童のみが参加した授業である。とにかく「学校は楽しいところ」という印象をもてるような工夫をする。</p> <p>○学習活動における時間配分の工夫：1単位時間に2つの活動行う。また、わくわくタイムにつながるなかよしタイムの時間を設ける。 【なかよしタイム→わくわくタイム】</p> <p>【読み聞かせ（なかよしタイム）】</p> <p>○読み聞かせを行うことで、読書活動に親しみをもたせる。</p> <p>○あるページの挿絵の中にある物をカードで示し、どこにあるかを見付けることで、注意深く見ることができるようにする。</p> <p>【挿絵を基にした話合い（わくわくタイム）】</p> <p>○教科書の挿絵を基にして、自分の見付けたものや、どのような感じかを伝え合うことで、話し合ったり発表したりすることの楽しさを味わう。また、発言の仕方などを知る。</p>

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点（★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫） ◆評価
1 読み聞かせの前に手遊び歌を歌う。	★園でも行っていた手遊び歌や読み聞かせを取り入れることで安心して楽しく活動に入れるようにする。「国語は楽しい。」と思える雰囲気づくりをする。
2 読み聞かせをする。 『やねうら』	○教師の前に集めず、広がって視聴する。全体に見えやすいように、また、密にならないように、絵本の紙面を画像にして、大型ディスプレイに映して読み聞かせを行う。
3 挿絵の中にある物のカードを示し、物を探す。 「アイロンはここにあるよ。」 「にんじんが見付からない。」	○拡大した挿絵を黒板に掲示して、見付けたものを自由に指し示すことができるようにする。 ★見付けたものを自由に発言したり、黒板の拡大掲示を指し示しに来たりできるように促す。 ★安心や楽しさを優先し、言葉遣いや発表の仕方には柔軟性をもたせる。
4 授業が始まる準備をする。	★楽しく授業の準備をしたり、学習への意欲を高めたりできるように、歌のリズムにのって学習用具をそろえられるようにする。
5 教科書の挿絵からいろいろなものを見付け、どのような感じがするかを発表する。 「ネズミも遠足に行きたいと思っている。」 「おにぎりが転がって困っているみたい。」 「天気がいいからいい気持ち。」 「大きなキノコがクジラに見えます。」	★はじめは教師が示範することで、安心感をもたせる。 ○「感じ」を表現することが難しい児童には、見付けられたことを称賛し、学習の楽しさを感じさせる。 ★できていることを称賛し全体に広めることで、自信をもたせて、学習の楽しさ、発表することへの安心感をもたせたり、学習ルールの定着を図ったりする（言葉遣い、返事、認め合いなど）。
6 振り返りをする。 次への活動意欲を高める。	◆挿絵を注意深く見て、挿絵に描かれているものを見付けたり、思い浮かんだことを教師や友達に話そうとしたりしている。 ◆友達の話を聞き、自分の考えと照らし合わせて応答している。 ★個々の振り返りではなく、クラス全体で振り返り、「今日、自分が頑張ったこと」に挙手をさせ、意欲を高めて終わることができるようにする。 ★楽しい雰囲気ですべてをしめくくる。頑張った合言葉をみんなで行う。 「1組、チャチャチャ(手拍子)、グッジョブ！」

<指導のポイント>

安全

安心・楽しさ

- ・安全を考慮した授業形態の工夫
- ・密を避けるためのICT機器の活用
- ・幼児期の経験からの安心感や楽しさ
- ・ゲーム性のある活動、手遊びの楽しさ
- ・友達や新たな友達と一体となる楽しさ
- ・発表の機会を保障し、成功体験から得る学習の楽しさ

主 協 言

安心・楽しさ

■手遊び歌をすると、楽しい読み聞かせが始まる



- T「手遊び歌は園でもしたね。」
 C「知っているキャラクターが出てくる歌だね。」
 C「お友達の話をよく聞いたら褒められたよ。」

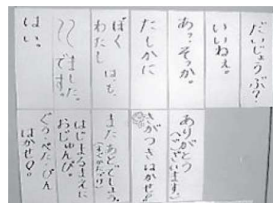
■楽しみながら、学習の習慣化を図る
歌に合わせて学習用具の準備をし、授業に期待をもたせる。

- T「教科書出して♪、ノートを出して♪、下敷き出して♪
 筆箱出して♪、準備ができたなら正しい姿勢で♪、
 始まり♪、始まり♪」
 C「歌に合わせて道具を出すの、楽しいね。」
 C「歌に合わせてすると早くできるよ。」

■児童の発表した言葉遣いや良い行動を
掲示する

児童が考えた言葉を学習や生活の中で使う言葉として取り上げることで主体性や意欲をもたせる。

- T「Aさんの言葉、いいね。
 『たしかに』は、『きらっとカード』にしよう！」



- C「新しい友達と話したよ。」
 C「ぼくが言ったこと、カードになったよ。うれしいな。」
 C「きらっとカード」に書いたようなことをしよう。」
 C「その言葉、『きらっとカード』になるよね。」
 C「まだ、遊びたいけどもうやめよう。」
 C「歌の前に教科書とか出せたよ。」

安全

■初めての教室環境等になじませる

■感染症防止対策を講じる

- ・密集を避け、自席で見やすい工夫をする(大型ディスプレイ・プレゼンテーションソフト)。



「自分の席からよく見えるようにテレビに映して読み聞かせをするね。」

- ・密接を避け、自席でゲームをする



■新しい友達と学習する楽しさを味わわせる

■次時や翌日への学習に意欲をもたせる

- T「頑張った合言葉を言おう。」



- T・C「1組、チャチャチャ(手拍子)、グッジョブ！」
 C「楽しい！ 明日も頑張ろう！」

事例4

第1学年	4月第1週 入学5日目	はじめまして がっこう はじめまして ともだち
------	----------------	-------------------------

音楽科・特別活動指導案

単元名	「うたって おどって なかよくなるう」(音楽) 「きゅうしょくの じゅんびをしよう」(特別活動(学級活動))
本時のねらい	○知っている歌を楽しく歌ったり、リズムに乗って動いたりして楽しむ。(音楽) ○給食の準備の仕方を知り、衛生に気を付けて給食の準備をしようとする。(特別活動(学級活動))。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎学習活動の時期や時間配分の工夫:給食が始まって3日目である。1単位時間に、音楽科、学級活動の学習を組み合わせることにより、先生・友達と楽しい時間を共有していくことで学校生活や人に慣れ、楽しさを味わわせる。【なかよしタイム→チャレンジタイム】 【音楽】 ○園で歌った歌を活用することで安心して、自信をもって積極的に楽しめるようにする。 ○体を動かしながら楽しくリズムに乗ったり歌ったりするという動きの中で、クラスの新しい仲間と仲良く関わることができるようにする。 【特別活動(学級活動)】 ○給食の指導は、展開後半に25分の授業として計画する。一人一人が自分のやるべき役割を理解すること、自己の健康保持への意識を高めるための指導の工夫をする。

展開例

	主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
音 楽	1 歌クイズをする。 ・ちゅうりっぷ ・ちょうちょう ・ぞうさん ・こいのぼり ・こぶたぬきつねこ	★できるだけ多くの児童が経験してきた歌を選択する。 ★音楽の教科書に歌詞が載っていることを確認し、教科書の開き方も合わせて指導する。 ○知っている曲を発表できたことが自信につながるよう、できるだけ多くの児童の発言を聞く。発表する時の約束について確認し、それを守って発言ができた児童を認め、褒める。 ○知っているが、曲名が出てこないときは、一文字ヒントを出す。 ○「さんぽ」も教科書に載っているので、そのページを開き、歌詞を確認する。一斉指導でページが開けない児童には、個別支援を行う。
	2 「さんぽ」の歌クイズをする。	★着席している時間が長すぎることをないように、体を動かしながら活動できるようにする。
	3 「さんぽ」を歌う。	○動いている最中には、机やいす、他の友達にぶつかることをないように事前に指導する。
	4 歌いながら教室の中をさんぽする。	○思うように動くことができない児童には、個別支援を行う。また、リズムをとることが難しい児童には、体を軽くたたいてあげることでリズムを知らせる。
	5 曲が終わるまでに自席に戻る。	○来週の音楽の活動について知らせ、次週に期待がもてるようにする。
	6 振り返りと来週の音楽の確認をする。	◆楽しんで歌ったり動いたりすることができる。 ○音楽の教科書をしまい、気持ちを切り替えさせる。
特別活動 (学級活動)	7 給食の準備の説明を聞く。 ・一人一人の仕事内容とグループを確認する。	○給食当番やその他の児童一人一人の仕事内容を確認させる。 ・黒板にそれぞれの役割分担表を掲示し、自分が何をすればよいか、何色グループなのかを目でいつでも確認できるようにする。 ・自分の仕事が終わり、着席して待つ間、当番の仕方を観るようさせる。 ・それぞれの活動を始める寸前に、まず全員がトイレ、うがい、手洗いをすることを再度伝える。
	8 始めに全員がすること(机の準備、トイレ、手洗いなど)を行ってみる。	★自分が何をしたらよいか分からない児童には、掲示物を一緒に確認しながら個別支援を行う。 ★担任一人だけではなく、補助に入る指導者と役割分担をして、一人一人への言葉掛けをする(TT体制)。
	9 自分の仕事のやり方を知る。	★熱いスープなどは、必ず教師が扱うようにする。
	10 給食の配膳の仕方を知る。	★既習経験や能力に個人差があるため、盛り付け(分量、配置)の見本を作るなどして、児童が配膳しやすいようにする。 ◆給食の準備の仕方や自分の担当の仕事が分かり、進んで準備をすることができる。

※ 給食指導については、各教科等の目標・内容に合致している場合は、各教科等で実施したり、授業時数以外の教育活動として位置付けたりすることが考えられます。

<指導のポイント>

安全
安心
楽しさ

- ・音楽遊びのルール
- ・衛生面のルール、けがの防止、TT体制
- ・幼児期の経験からの安心感や自信・意欲
- ・どの子にも分かりやすく学びやすい環境づくり
- ・歌クイズやリズムに合わせて動く楽しさ
- ・友達や新たな友達と一体となる楽しさ

主 協

主 協 言

安心

楽しさ

安全

リズムにのって
楽しもう

- ・同じ園の友達がいるからうれしいな。
- ・新しい友達もできるよ。
- ・この歌、知ってる。
- ・園で、歌ったことがあるよ。

★児童がこれまで歌ってきた歌で、リズム遊び、歌当てゲームなどを行い、安心感や自信・楽しさを感じさせる。
★音楽遊びをする中で、他園から入学してきた友達とも楽しむことで、自然と仲良くできるよう工夫する。

- ・体を動かすと楽しいね。
- ・曲をよく聞いてみよう。
- ・曲の速さが変わったよ。



★同左:「安心」に同じ

- ・室内は走らない。
- ・教室にある机や椅子(障害物)を上手にさけて歩こう。
- ・回る向きを守って歩くとぶつからないよ。
- ・周りの友達をよく見よう。

★オープンスペースなど、できるだけ安全な場所で行う。
★回る方向や順序など(本活動以外も)同じ方向へ動く(ルールを守る)と安全なことに気付かせる。

給食の準備をしよう

- ・私の名前は何色グループの中にあつたよ。
- ・私の仕事は○○だね?



★字をたくさん書かず、分かりやすい表にする。教室内に、掲示しておく。

- ・今日の給食、献立は何かな。
- ・おいしそう。早く食べたいな。
- ・お仕事するのは楽しいね。
- ・他の当番もしてみたいな。
- ・みんなでやると楽しいね。
- ・私が当番になったらできるかな。

★グループで食べるなど給食が楽しい時間になるよう方法や教師の言動を工夫する。
★食べる量や時間など、個の課題を把握し、指導の工夫をする。

- ・トイレや手洗いを済ませてから白衣を着るよ。
- ・食缶はしっかり持ち、先生と動かそう。
- ・見本をよく見てよそう。



★手洗いをしているか確認する。
★食缶の熱さを必ず確認する。

本事例の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動例

① 健康な心と体

- ・ルールを守り、安全に動くことができる。(音)
- ・安全に給食準備をする。(学)

② 自立心

- ・自分の仕事を理解し、責任をもってやり遂げることで自信をもつ。(学)

③ 協同性

- ・グループの友達と言葉を掛けたり教え合ったりして準備をやり遂げる。(学)

④ 道徳性・規範意識の芽生え

- ・自分の仕事をやり遂げることの大切さを知り、準備の約束を理解する。(学)

⑤ 社会生活との関わり

- ・安全な準備の仕方や配膳の仕方などを知り、自分がみんなの役に立つ喜びを感じる。(学)

⑥ 思考力の芽生え

- ・どうしたら安全に準備ができるか考え、分かったことを友達に伝える。友達から教えてもらい、自分のやり方をよりよくなる。(学)

⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・歌の歌詞を正しく読み取る。また、自分の名前やグループ名を正しく読み取ることができる。(音・学)

⑨ 言葉による伝え合い

- ・先生の説明をよく聞き、自分が何をするのかを理解する。また、友達と言葉を掛け合いながら協力し合って学習する。(音・学)

⑩ 豊かな感性と表現

- ・曲の感じを体や歌で表現する楽しみや喜びを味わう。(音)

※(音):音楽科、(学):学級活動

事例5

第1学年

4月第2週
入学9日目

がっこう だいすき ともだち だいすき

国語科・特別活動学習指導案

単元名	「おはなし たのしいな」(国語) 「きゅうしょくのじゅんびをしよう」(特別活動(学級活動:給食の時間))
本時のねらい	○図書室や本に興味をもち、好きな本を選んで読もうとする。 ○給食時の約束や、当番の仕事の仕方を思い出しながら、みんなで協力して給食の準備をする。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎行事の多い時期、4校時になると疲労や集中度・意欲の減退がみられる。また、給食にかかる時間も長い。児童の体調や給食の仕方の習慣化を考慮し展開を工夫した。 ○学習活動の時間配分の工夫:1単位時間の前半を国語科とし、後半を特別活動(学級活動:給食の時間)とする。【わくわくタイム→チャレンジタイム】 【国語】 ○この学習の前に「としよしつ たんけん」(生活科)を実施し、本時への学習意欲につなげていく。本時は実際に図書室の使い方にならない、ルールを守りながら自分の好きな本を選んで楽しく読むことで、図書室や読書に親しませる。 ○図書室での約束を絵カードで表示する。 【特別活動(学級活動:給食の時間)】 ○園でも経験してきたうがい・手洗いなどを衛生に気を付けて行い、進んで実践する姿を励ましていく。初めて経験する給食当番活動などについては、(弁当の園もあり)児童の経験差が大きいので時間を掛けて取り組ませ、徐々に定着・習慣化していく。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価	
国語	<p>1 図書室が舞台の絵本「としよかんライオン」の読み聞かせを聞く。 「図書室、この間行ったね。」 「早く行って本が読みたいな。」</p> <p>2 図書室に行く。</p> <p>3 図書室の約束をみんなで確認する。 ① 本を大切にしよう。 ② 静かに読もう。 ③ 本は元の位置に戻そう。</p> <p>4 図書室の本を読む。 好きな本を選び自由に読書する。</p> <p>5 振り返りをする。</p>	<p>★先週行った「としよしつ たんけん」で、図書室へ行ったことを思い出させ、図書室に行きたいという意欲を引き出させる。 ★児童が聞きやすい場の設定をする(オープンスペース・教師の周りに集合など)。 ◆図書室や本への興味が高まる。</p> <p>○静かに廊下を移動できるように促す。</p> <p>★図書室の約束を視覚的に訴える絵カードを使って、みんなで確認をさせる。 ○図書室を回り、どこにどのような本があるかを気付かせる。絵本のコーナー、図鑑のコーナーなど、児童が興味を示しそうな場所を案内したり紹介したりする。</p> <p>★一人一人が好きな本を選ぶことができるように、司書と相談して、絵が分かりやすく1年生におすすめの本を選んでおく。 ★司書と選んだ本を、表紙が見えるように本棚の上に立て掛けておく。 ○本が選べない児童には助言したり一緒に選んだりする。 ◆好きな本を選んで読める。</p> <p>★振り返りの工夫…具体的なポイントを示し、それに沿って考えさせる。 ① 図書室の約束は守れましたか。 ② 好きな本(どのような本)を選んで、読めましたか。 ★話すときの約束を意識させた上で児童に発表をさせる。 ◆図書室の使い方や約束が分かり、好きな本を選んで読もうとする。</p>
給食の時間	<p>○給食の準備をしよう。 ・給食当番の役割を知る。 ・その他の児童の役割を知る。 ① 机を班の形にする。 ② トイレ・うがい・手洗いを する。 ③ 自分の席で当番のやる ことを見ている。</p> <p>○児童の仕事内容を確認させる。 ○給食の準備の際には、「トイレ・うがい・手洗い」の前に「机を班の形にする」ことが衛生的であることを考えさせて確認する。</p> <p>★昨日の仕事を思い出させながら、仕事をするように促す。 ★自席にいる児童には、配られた食べ物を正しく配膳させたり、次に自分の役割となる当番の仕事の様子を観させたりするように言葉掛けをする。 ◆給食準備のルールや昨日の自分の仕事を思い出しながら、準備ができる。</p>	

※「給食の時間」は、学級活動における授業時数以外の教育活動として位置付ける。

<指導のポイント>

安全

安心

安心・楽しさ

- ・給食時間のルール 衛生面のルール
- ・けがの防止、TT体制や上学年の協力
- ・幼児期や図書室探検の経験から安心感や意欲
- ・どの子にも分かりやすく学びやすい環境づくり
- ・たくさんの本を見たり、選んだりする楽しさ
- ・好きな場所で友達と読む楽しさ

国 協

国 協 言

安心

- ★絵本コーナーでの自由読み
- ★座卓やマットの場の設定(園での経験をつなぐ)



- ★1年生に興味・関心がありそうな本を掲示する。



園でもこの本見たよ!

- ★伝えたいことを絵カードで提示する。

- ・常掲することで習慣化させる。
- ・文字を多く書かず、絵などを活用する(50音を習得していない児童に配慮)。



楽しさ

- ★広い図書室を自由に回って好きな本を選んだり、テーブルやマットの場で友達と本を読んだりする(園での経験をつなぐ)。



安全

- ★TTや上学年が給食準備・片付けの補助をする。

こうやってごらん。



これどうするの?



本事例の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動例

① 健康な心と体

- ・うがい・手洗いをしてから配膳したり楽しく食事をしたりする。(学)
- ・熱めの食缶の時は教師に伝える。(学)

② 自立心

- ・自分の好きな本を選んで読もうとする。(国)
- ・当番の仕事ややるべきことを最後までやる。(学)

③ 協同性

- ・グループの友達と仲良く協力して給食当番の仕事をする。(学)

④ 道徳性・規範意識の芽生え

- ・図書室の使い方や、本を読むとき・戻すときの約束を守る。(国)

⑤ 社会生活との関わり

- ・図書館司書との約束を確認し、しっかりと守る。(国)

⑥ 思考力の芽生え

- ・本の並び方を理解し、元の場所に正しく戻す。(国)
- ・昨日やった方法や手順を思い返し、今日はもっと上手にできるよう工夫して行う。(学)

⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・絵カードを見て、図書館の約束を守るように当番表を見て活動する。(学)

⑨ 言葉による伝え合い

- ・振り返りでは、自分の活動の様子を話したり、友達の振り返りをよく聞いたりする。(国)

※(生):生活科、(学):学級活動
(国):国語科

事例6

第1学年


5月 第5週
入学20日目

がっこうだいすき ともだちだいすき べんきょうだいすき

算数科・特別活動学習指導案

単元名	「いくつといくつ」(算数科) 「きゅうしょくのじゅんびをしよう」(特別活動(学級活動))
本時のねらい	○6の分解、合成の見方に興味をもち、6の構成を理解する。(算数科) ○給食の準備の仕方を知り、みんなで協力して活動しようとする。(特別活動(学級活動))
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎5月の連休明けや学校行事を考慮した指導の工夫をする。学習活動をいくつかの細かい活動に分けることや、「学びに向かい、学びを楽しむ学習の時間」を意図的に実施することで、学習への安心感をもたせて学習意欲を高める。 【わくわくタイム→チャレンジタイム】 ○給食の準備では、生活科の『どきどきわくわく しょうがっこう』との関連を図り、個々の取り組みを認めるとともに、友達と関わって取り組むことのよさを実感させる。 【なかよしタイム→わくわくタイム】

展開例

	主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
算 数	1 百玉そろばんやフラッシュカードで、5までの数の構成について反復練習をする。 「1と4で、5。」 「2と3で、5。」	★5までの数の構成について、リズムカルに、テンポよく楽しみながら声に出させる。 ○児童の反応をよく見てスピードを調整して、元気よく声を出していることを認める。 
	2 6はいくつといくつに分けられるか活動を通して考える。 「4つ取り出すと、ケースの中は、2つかな?」	★楽しみながら数の分解・合成に取り組みさせるために、ブロック(半具体物)をケースから取り出すゲーム的活動を行う。 ○いくつかの組み合わせがあることに気付かせるために、十分に時間をとる。 ◆6の分解に興味をもって取り組んでいる。 
	3 自分が見付けた6の分け方を友達に伝えたり、自分の結果を教科書に書き込んだりする。 「2と4で、6になったよ。」 「わたしも同じ分け方を見付けたよ。」	★隣同士(ペア)で自分の見付けた分け方を伝え合う。 ★教科書に書き込んだ答えを、担任が速やかに丸付け(評価)することで、学習への興味・関心を高め、次の学習への意欲につなげる。 ◆6の構成を理解している。
	4 6がいくつといくつできているか発表する。	○まとめとして「6は、いくつといくつからできるか。」を発表させる。
特別活動 (学級活動)	5 給食の準備について話を聞く。 「わたしは、〇〇当番ね。」 「ぼくは、当番でないから、~をするんだね。」	○表などで、給食当番とその他の児童の役割について確認する。 ・トイレ→手洗いの順であること(全児童)。 ・先に給食当番の児童が手を洗い、準備が進んでいくようにすること。 ・自分の仕事が終わった児童は、自席に座り当番の動きをよく観察するようにすること。 
	6 給食準備中の活動について話し合う。	★給食当番の分の配膳について、進んで取り組む児童など、学級のための積極的な行動を認める。 「〇さんはAさんの分を机に並べていました。」 ★役割が分からない児童には個別に指導を行う。 ◆給食の準備の仕方について概ね理解し主体的・協働的に行う意欲をもつ。 

○ スタートカリキュラムの実施期間や実施期間設定後の配慮について

実施期間の検討

スタートカリキュラムの実施期間としては、入学後2週間、1か月、2か月など、多様に想定することができる。例えば、入学直後の学校生活の充実を図るためには2週間程度、5月の連休を視野に入れる場合には1～2ヶ月程度のスタートカリキュラムをデザインすることが考えられる。大切なことは、児童や各学校の実態を基に、期待する児童の姿を目指して、必要な期間を設定することである。

実施期間の設定後も、スタートカリキュラムにおける児童の姿等を評価しながら、期間を短くしたり、伸ばしたりするなどして、柔軟に対応することが必要である。また、実施期間が終わってからも、長期休業後などには、スタートカリキュラムの考え方を生かした指導の工夫を行い、1年間を通して、児童の状況に応じた対応を心掛けたい。

「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム～スタートカリキュラム導入・実践の手引き～」

『第2章 スタートカリキュラムをデザインしよう』より（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 編）

※作成にあたっては、「接続期カリキュラム事例集」（令和2年3月発行）を参照してください。

○ 大型連休明けの児童の様子

1学期に運動会を実施する小学校では、5月の大型連休明けから練習が本格化し、運動会に向けた特別時間割になる場合が多い。1年生の児童にとっては、大型連休の直後であったり運動会の練習が入ってきたりして、心身ともに疲れやストレスが多くなる時期でもある。

そこで、スタートカリキュラムをデザインするにあたっては、児童の不安や負担を軽減できるように、この時期ならではの工夫や配慮が必要である。また、児童の経験や成長を考慮し、意欲や主体性が発揮できるような工夫も必要な時期である。

○ 休明けの指導の工夫（この時期の児童の生活リズムや特性に配慮）

安心

「なかよしタイム」でスタート 協 言

1校時に「なかよしタイム」を設定するなどして、連休明けでも楽しい気持ちで1日がスタートできるように時間割を計画する。

安心 **楽しさ**

この時期も「モジュール」の活用は効果的 目

連休明けや運動会練習などを考慮して、10分から15分程度の短い時間（モジュール）を活用して時間割を構成し、児童の学習意欲が継続するよう工夫する。
（事例では） 算数・・・10分×3
学級活動（給食）・・・15分×1

楽しさ

「具体的な学習活動」の工夫 目

遊びの要素を取り入れた活動や具体的な活動の伴う学習活動を1時間の中に位置付ける。
（事例では）

- ・百玉そろばん・フラッシュカードの活用



1と4で 5
2と3で 5
⋮

- ・ブロック・おはじき（半具体物）を用いた活動



成長

4校時後半の学級活動（給食指導） 協

入学当初、4校時後半に設定していた学級活動（給食指導）は徐々に減らし、4月後半には正規の給食の時間の中でできるように移行していきたい。

一方で、連休明けの頃から給食当番が一巡し始めるので、ねらいの重点が「個々の活動」から「友達と関わって取り組むことのよさを実感させる活動」の方へ少しずつシフトしていく時期でもある。

そこで、連休明けの給食指導は「友達との関わり」をねらいの重点に加え、「学級活動」として4校時の後半に1/3時間とることで、ゆとりをもって実施する。

友達と力を合わせて、配膳できたよ。



事例7

第1学年

5月 第5週
入学21日目

がっこう だいすき ともだち だいすき べんきょう だいすき

国語科・特別活動学習指導案

単元名	「たのしいな、ことばあそび」(国語) 「きゅうしょくのじゅんぴをしよう」(特別活動(学級活動))
本時のねらい	○音節と文字との関係に気付くことができる。(国語) ○身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。(国語) ○給食の準備の仕方を確認し、課題を解決することができる。(特別活動(学級活動))
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫 ※区幼保小の共通の視点	◎この頃には多くの児童が給食当番を経験しているが、まだ経験していない児童がいたり、他児童の役割を知らないでいたりする。そこで、最後のまとめとして、当番活動の方法や約束などを確認するため、4時間目の授業に特別活動を組み入れる。 【国語科】 ○楽しみながら言葉集めができるよう、手を叩きながら音を意識させて学習を進める。 【特別活動(学級活動)】 ○給食当番の活動は、児童の経験差が大きく、全児童が体験するまで、繰り返し指導し、定着・習慣化させていく。 ○【主：主体的な活動、協：協働(協同)的な活動、言：言語活動】 主 積極的に言葉集めに参加し自信をもってチャレンジできる。 協 自分の経験を話し、改善点について話し合う。 言 楽しみながら語彙を増やし、言葉のリズムを楽しむ。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
<p>国語</p> <p>1 教科書「たのしいな、ことばあそび」を読んで、本時の学習内容とめあてを確認する。</p> <p>2 「い」「こ」など既習の平仮名で始まる2、3、4文字の言葉集めをする。 「いぬ」「いんこ」 「いなずま」</p> <p>3 学習の振り返りを行う。 「たくさんでできたな。」 「ほかの言葉もやりたいな。」</p>	<p>○前時の振り返りやめあての確認をしてから、本時の学習に取り組む。</p> <p>○教師がまずは2文字の言葉を黒板の上側に書き、文字数が増えるごとに黒板の下側に書き分ける。 ◆考えを積極的に発表している。 ★手を叩き、文字数を意識させて語彙を増やしていく。 ◆身近な事を表す語句の量を増やし語彙を豊かにしている。 ★これから平仮名の学習が本格化するにあたり、習った文字を使った言葉集めを、今後の平仮名の学習でも、継続して行っていく。</p> <p>○黒板に書いた文字と文字数を振り返ることで、達成感を高める。さらに別の言葉でも言葉集めをしたいという意欲を高める。</p>
<p>特別活動(学級活動)</p> <p>4 これまでの給食準備や当番の方法を確認する。 ・給食前の当番について ・給食当番の準備や役割について</p> <p>5 上手にできたこと、うまくできていないことについて考え、話し合う。 「とるときに食器を落とす。」 「当番で同じ量に配れない。」 「時間内に食べ終わらない。」</p>	<p>★給食準備や給食当番の準備や役割について、児童が確認できるように、表を提示する。</p> <p>○表を基に、上手くできたことを捉えさせて、そのよさを認める。その後、上手にできていないことやその原因を考えさせる。 ・落とさずに食器が取れるようにする方法を話し合わせる。 ・よそう量が分かるように教師が見本を置くことを伝える。 ・拡大時計を利用して、食べ終わる時刻が分かるようにすることを伝える。</p> <p>◆給食準備の約束を確認しながら、問題点等を考えることができる。</p>



<指導のポイント>

安心・楽しさ

成長

- ・チャレンジ意欲
- ・失敗を恐れず自分の意見の表出
- ・体験や、安全・衛生面からの気付き
- ・課題改善に向けた話し合い活動
- ・課題改善への意欲

主 言
主 協 言
主

安心・楽しさ

■活動を工夫しチャレンジ意欲を高める

- ★言葉集めの楽しさを味わえる活動を行う。
 - ・児童から出された言葉を板書する。
 - ・言葉の文字数やリズムに合わせて全員で手をたたく。
 - ・出てきた言葉を黒板に書き加え、さらに手をたたく回数やリズムを増やしていく。

- ★失敗を恐れず安心して発言できるようにする。
 - ・自分がうまく伝えられない言葉でも、イメージを話させる。
 - ・情報端末を活用しインターネット検索する。
 - ・画像を見せ、言いたかった言葉か確認する。



T「この動物かな？」 C「これ。イルカか。」

- ★新たに知る言葉でも実物の画像と一致させることで言葉への関心を高める(ICTの活用)。

- ・出てきた言葉を皆が知っているか確認する。
- ・実際の動植物の画像を視聴する。



T「コスモスを見たことある?こんな花だよ。」

成長

■体験や気付きから課題を考え、よりよい活動ができるよう改善への意欲を高める

- ★給食の準備や約束について表を提示して、課題を捉えやすくする。
 - ・給食前の準備について確認する。
 - ・給食当番の準備について確認する。
 - ・給食当番の役割について確認する。



- ★場面ごとに児童の体験や気付いたことを思い出させて、課題や改善点を考えやすくする。

- ・各自の体験から上手くできていることを考える。よくできていることは称賛する。
- ・次にうまくできていないことやその原因を考える。



- T「うまくできていないことは何かな?」
- C「おかずの量が同じにできません。」
- C「時間内に食べ終わらない。」
- C「途中から話をするのをやめよう。」
- T「そうだね。長い針が〇からは、モグモグタイムだよ。」

○ 児童が安心・安全に給食時間を過ごせる環境作りの工夫

同じ量で配膳できる工夫

- ・見本を提示して、児童が視覚的にまねて配膳できるようにする。



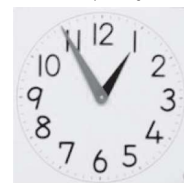
配膳中こぼさないようにする工夫

- ・配膳台の前に机を追加し、その上でお盆を移動させる。



見通しをもって食べられる工夫

- ・拡大時計等の教材を利用して、終了時刻等を提示し、見通しをもてるようにする。



事例8

第1学年

5月 第6週
入学26日目

がっこう だいすき ともだち だいすき べんきょう だいすき

生活科・国語科学習指導案

単元名	「がっこう ひみつ たんてい」(生活) 「ぶんをつくろう」(国語)
本時のねらい	○学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達等について自分との関わりを考える。(生活) ○「がっこう ひみつ たんてい」で見付けたことを文に表すことができる。(国語)
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	<p>新型コロナウイルス感染予防対策で、4・5月は自宅学習、6月(6月前半は分散登校)から授業開始となった。7月に入り、児童は学校生活のリズムにも慣れ、安心して学校生活が送れるようになってきた。児童の思いや願いが連続し、主体的に楽しく学びに向かえるように、生活科の指導計画を工夫し授業展開を行う。</p> <p>◎指導計画の工夫:入学19日目は通常4月末の内容(ひらがなの練習や音読、お話を聞く等)を指導する時期であるが、自宅学習で学んだ結果(習熟度)を把握し、5月後半(30日頃)の「ぶんをつくろう」を生活科の内容と組み合わせた。</p> <p>○学習活動における時間配分の工夫:1単位時間に生活科・国語科の2つの活動を行う。 【わくわくタイム→チャレンジタイム】</p> <p>【生活科(わくわくタイム)】</p> <p>○自分の行ってみたい教室や特別教室へ探検に行く。生活科の授業だけではなく、休み時間等の学校生活で見付けたことを「わくわくタイム」においてカードに表現できるように教室にカードを用意しておく。これまでのカードも教室に掲示し、児童が前時までの内容を確認できるように、また「もっと見付けたい!」という思いや願いをもてるように発問・言葉掛けを工夫する。</p> <p>【国語科(チャレンジタイム)】</p> <p>○「がっこう ひみつ たんてい」で気付いたり発見したりした感動の後に「ぶんをつくろう」を行うことで、書くことに対する児童の学習意欲を高める。</p>

展開例

	主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
生活	1 本時のめあてを確認する。 「探偵になって4階を調査しよう。」	★前時に児童が考えた「がっこう ひみつ たんてい」の名前や「何を調べるか」について模造紙に書き、全体で確認する。
	2 階段の歩行について確認する。 「探偵は静かにひみつを見付けるんだね。」	○授業中の校舎内の移動や教室等の見学マナーを知らせる。 ○探偵は、「安全に」「静かに」調査するというイメージをもたせて、活動の意欲を高める。 ○児童が4階へ行くことについて、事前に教職員に周知しておく。
	3 自分が選んだ教室に行き、探偵になって「とっておきのひみつ」を見付ける。	★探偵が必要な道具を準備する際には、教師の意図や指示ではなく、児童に何が必要かをイメージさせ、児童の考えで準備したように感じさせるように言葉掛けを工夫する。 ○担任は、4階を巡回し、班の活動や密になっていないかを確認する。 ◆探偵になって見付けた「とっておきのひみつ」を見付けることができる。
国語	4 見付けた「とっておきのひみつ」を絵や文に表す。	★マス目のある紙を用意し、文を書くことに慣れていない児童が活動しやすくなるようにする。短い文や言葉のほか、絵で表してもよいようにする。 ★書き始める前に数名に見付けたことを発表させ、例を示す。 ★「もっと書きたい」「まだまだ見付けたいことがある!」との思いや願いをもって取り組んでいることを価値付ける。 ◆探偵になって見付けた「とっておきのひみつ」について、絵や文に表すことができる。
	5 本時を振り返り、次時のめあてをもつ。 「違う階も調査したい。」 「もっと詳しく知りたいからインタビューしたい。」	★次時にしたい活動内容を自由に表現できるように、活動内容を児童に問い掛けることにより児童や意欲や期待をもたせる。 ★朝や休み時間に見付けてきた「とっておきのひみつ」を自由に表現できるように、教室にカードを用意しておく。

<指導のポイント>

楽しさ

安全・安心

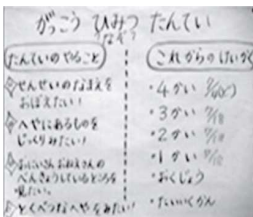
成長

- ・児童の思いや願いを実現させる授業の工夫
- ・より楽しく意欲的に学べる工夫・ゲーム性のある活動
- ・安全を考慮した活動形態の工夫・グループでの活動
- ・学校の中の様々な場所や人を訪問する際のルールやマナーの習得
- ・気付き、興味・関心、主体的に学ぼうとする意欲や達成感、自信

主
協
主 言

楽しさ

- 児童の考えや活動してみたいことなどを活動計画に生かす。



C「探偵の名前、みんなで決めたよ。」

C「ぼくは屋上の秘密を見付けたい。」

- 活動や態度の習慣化などに、ゲーム性をもたせる。

T「探偵になってひみつを探そう。」

C「探偵は静かに忍び足で歩くだね。」

- 児童が主体的に活動できるように問い掛けや言葉掛けを工夫する。

T「何か必要な物がありますか。」

C「字が書けないときは絵を描いてもいいですか。」

- 発見の楽しさを味わわせる。



C「校長室には、トロフィーがいっぱい置いてあるね。」

C「たくさんある写真は、全部前の校長先生だっ。」

C「ソファはお客さん用だね。」

安全・安心

- グループで協力し合って活動させる。
- 全体やグループで活動する前と後の確認や振り返りをきちんと行い、習慣化につなげる。
- 廊下の歩行、教室の入り方、挨拶の仕方を練習する。

T「失礼します。」「ありがとうございます。」

「私たちは、…です。部屋を見せてもらってもよいですか？」



T「授業中、邪魔にならないように、静かに探偵歩きをしよう。」

C「友達と一緒にだから安心、2回目からはしっかりと挨拶ができた。」



T「ここは理科室です。実験の道具や薬があるので、危ないから鍵を掛けています。」

C「ここは実験をする部屋だよ。」

C「薬がいっぱい。」

C「危ないから1列で観よう。」

C「ここは先生と一緒に来る所だね。」

- 心の安心・安全

C「僕は書けない字があるので心配だったけれど、先生が、『書けないときは絵でいいよ。』と言ってくれたから安心。」

成長

- 各グループの友達と協力し合って活動させる。

C「観ていない教室のことも友達が探偵して話してくれたから分かったよ。」

C「私は屋上に行きたかったけれど、グループのみんなが職員室に行きたいと言っていたから、我慢して次の時間にしたよ。」

- 目的意識をもって活動し、達成感や自信、次への意欲につなげる工夫をする。

C「新しい友達とも仲良く協力して探偵できた！」

C「4階にある教室が全部分かった。これからは一人でも行けるよ。」

- 児童の「思いや願い」を大切に生活科の学習をしていくことで、次第に他教科・領域においても「～をしてみたい。」という思いをもって、主体的に学習できるようにする。

C「休み時間になったら、校庭でお兄さんやお姉さんともお話ができるかな。」

C「図書室を探偵した時、僕の好きな絵本がいっぱいあったよ。今度は国語の時間に行って、本を読みたいな。」

事例9

第1学年

5月 第8週
入学38日目

がっこうだいすき ともだちだいすき べんきょうだいすき

体育科学習指導案

単元名	「にんじゃ しゅぎょうを しょう」(B器械・器具を使つての運動遊び)
本時のねらい	○固定器具やマット、平均台の安全な運び方や使い方の決まりを知る。 ○忍者になりきつて、上り下りやぶら下がり、渡り歩きや跳び下りなどを工夫して運動する楽しさを味わう。 ○友達と協力したり順番を守ったりして仲よく活動する。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎幼児期の経験を小学校の学習につなぐため、幼児期からの学びと育ちを生かした活動を設定した。 【わくわくタイム→チャレンジタイム】 ○「たいいくかん たんけん」で見えてきたマットや跳び箱を使つての運動遊びを初めて行う。全員が共通の忍者のイメージをつかむために、国語の時間に忍者に関する絵本の読み聞かせを行う。 ○幼児期に親しんだ「忍者修行」(マットや巧技台を使用)を取り入れることで器械・器具を使った運動遊びを意欲的に行い、楽しさを味わえるようにする。 ○機械・器具を使った運動遊びは、園によって経験の差があるので、準備や片付けの仕方や安全に関するルールなどについて、共通理解を図っていく。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点 (★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
1 忍者修行のための準備運動を行う。	○脚、足首、肩、首などをのぼしたりほぐしたりする。 ★忍者になったつもりで言葉を掛け、忍者修行への気持ちを高めていく。 ★事前の読み聞かせで知った忍者の技の動作をしながらイメージをふくらませ親しみやすくする。
2 マットや跳び箱の運び方の約束を知り、場の準備を行う。	○4人グループになり、協力し合つて、マット、跳び箱、平均台の準備をさせる。 ★全員に丁寧に説明した後、T1がやってみせる。焦らせずに、4人で協力して運ばせる。 ◆正しくマットや跳び箱などを運ぶことができている。
3 忍者修行に行こう。 ・全員で全ての修行を体験する。 ・運動遊びを行うときのきまりを知る。 「○○さんは、忍者転がりが上手だな。まねしたい。」 「一本橋から落ちないようにがんばろう。」 ・自分の好きな順序で忍者修行に取り組む。 「だんだん忍者転がりがうまくなってきたよ。」	修行1、 <u>肋木</u> ◎タッチされたら次の人がスタート。 ・両手でしっかりと握り、登れるところまで登つて3秒位ぶら下がり飛び下りないで正確に足をかけて下りる。T2が付く。 修行2、 <u>マット</u> ◎前の人がマットから下りたら、次の人がスタート。 ・忍者転がり(えんぴつ転がり)を行う。 修行3、 <u>跳び箱</u> ◎前の人がマットから下りたら、次の人がスタート。 ・2段と3段を使用する。跳び箱に飛び乗り、忍者のように静かにひらりとマットに着地し、忍者ポーズを決める。 ・「とん、ふわっ、ぴた」などのオノマトペを用いた指導を行う。 修行4、 <u>平均台</u> ◎前の人が平均台から下りたら、次の人がスタート。 ・「橋の下は深い川、ワニがいるよ。」などのイメージをもたせて、楽しく運動させる。 ・走らず落ちないようにバランスをとる工夫をさせる。 ◆ルールを守り、上り下りやぶら下がり、渡り歩きや飛び下りなどを工夫して行い、楽しんで取り組んでいる。 ○苦手な児童には適宜教師が補助に入り、前向きな言葉で励ます。 ★忍者になり切つて、思い切り運動している児童を個々に称賛する。 ★同じ修行に集まってきたグループで、「エイエイオー。」の掛け声を行い、忍者修行への気持ちを高める。 ◆順番を守り、友達と仲よく協力し合つて活動している。
4 振り返りを行う。	○「約束を守つて運べたか。」「楽しくできたか。」「仲良くできたか。」の3つのポイントを伝え、振り返らせる。 ★苦手な児童が徐々にできてきたことなども称賛し、全員が「楽しかった。」という思いをもって終われるようにする。
5 場の片付けを行う。	★授業の始めに伝えた約束を確認してから、グループで協力して片付ける。 ★安全に行えるよう、T2と役割分担して指導に当たる。

<指導のポイント>

楽しさ

・器械・器具の使い方や扱い方、ルール（知識）、TT体制 主

安全

・幼児期の経験からの安心感や自信・意欲
 ・模倣（忍者のイメージ）や器械・器具を使った運動遊びの楽しさ 主 協 言

成長

・友達と運動する楽しさ、工夫して行う楽しさ
 ・共通の目的意識・協働性、気付き、学ぶ意欲、達成感 主

楽しさ

運動遊びへの意欲をもたせる工夫

- ★オノマトペを用いた言葉掛けを行う。「とん、ふわっ、ぴた」マットをさわって「どろん」など。
- ★イメージがわくような言葉掛けを行う。
- ★修行の看板に、文字の他、絵や色を付ける。



橋から落ちるとワニがいるよ。

忍者転がりは音を立てずにはやくね。

成長

友達と協力し合い関わり合いをもたせる工夫

- ★同じ場に集まってきた仲間と「エイエイオー！」の掛け声を行う。
- ★修行を見合い、成功したときに拍手を送る。
- ★運動のコツなどを教え合う。
- ★準備、片付けはグループで協力させる。



1, 2, 3・・・成功!

★みんなで声を合わせて数える。

安全

場の準備の工夫

- ★児童:軽いマットを運ぶ(幼児期に経験している児童が多いため)、跳び箱の上2段を積み上げる。
- ★教員:跳び箱の下2段(上2段は児童が運びやすい位置に準備しておく。)、平均台(2台の間隔を十分とる。)を準備しておく。

器械・器具の扱い方やルール、安全面への配慮の工夫

- ★指導者がやってみせる。
- ★児童が待機する場所には、ビニールテープでラインを引くなどして示し、運動する場所と次に待つ場所との間隔を空けるよう習慣付けていく。
- ★肋木は教員(T2)がつくようにする。
- ★準備、片付けや特に安全面での指導が必要な運動には、複数の教員で分担協働する(TT体制)。



次の人はリングの中で待ちましょう。

★児童の立つ位置をリングで示す。

本事例の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動例

① 健康な心と体

・ルールを守り、時間内に全ての修行を安全に行おうとする。

② 自立心

・工夫しながら進んで修行を楽しむ中でやり遂げた達成感を味わい自信をもつ。

③ 協同性

・グループの友達と共通の目的をもち、工夫したり協力したりして修行をやり遂げる。

④ 道徳性・規範意識の芽生え

・運動の仕方を正しく行ったり順番を守ったりしながら運動する。

⑤ 社会生活との関わり

・他のグループや先生の示範を取り入れて自分のグループに活用し、友達に教え合い技を成功させる。

⑥ 思考力の芽生え

・器械・器具の準備や片付け、修行の仕方などがうまくできるような工夫し、友達の異なるやり方を見聞きして、自分のやり方をよりよくなる。

⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

・忍者の修行名立札を見分けて移動したり、肋木にぶら下がって数を数えたりする。

⑨ 言葉による伝え合い

・先生の説明をよく聞き、分からないことは質問する。また準備や片付け、修行の仕方や、友達が肋木にぶら下がっている時間を数えて知らせるなど、友達と協力し合う。

⑩ 豊かな感性と表現

・器械・器具などを、山や川、崖に見立て、忍者になったイメージをもって身体表現しながら運動遊びを楽しむ。

事例10

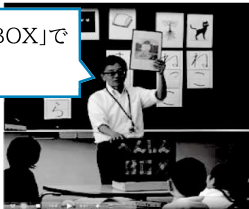

第1学年 5月 第8週
入学39日目

がっこう だいすき ともだち だいすき べんきょう だいすき

国語科学習指導案

単元名	「くまさんと ありさんの ごあいさつ」(物語) ※令和元年度使用教科書の単元 「ねこ、ねっこ」(促音)
本時のねらい	○「くまさんと ありさんの ごあいさつ」を音読することができる。 ○促音の読み方と、書き方を理解する。○連絡帳に、字が正しく書ける。
スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導計画や指導の工夫	◎小学校に入学してから 20～30 日経過すると、生活リズムに慣れてくるが、同時に疲れも出てくる頃である。特に、5月の連休明けから、運動会に向けての活動が増えている。疲れ気味で、運動会練習後の4校時や給食後の5校時など、姿勢が崩れたり集中力を欠いたりする児童の姿が少なくない。そこで 45 分の授業を2つの活動に分けて楽しんで学べるように多様な授業展開を行う。 【チャレンジタイム】 ○児童が主体的に楽しく学びに向かえる工夫をする。 ○個々の児童に対してノートに丸を付けたり、認めたりすることで意欲の継続を図る。 ○支援を必要とする児童の学習状況を絶えず把握し、的確な言葉掛けを行い、自信や達成感をもたせる。 ・話をしている人や対象(黒板の絵・文字など)をしっかり見る。 ・話す時の約束を意識させる。

展開例

主な学習活動 「予想される児童の反応」	○指導上の留意点(★スタートカリキュラムの考え方を踏まえた指導の工夫) ◆評価
<p>1 教科書「くまさんとありさんのごあいさつ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三人組で音読の練習後、前に出て発表する。 ・友達の発表のよいところを見付けるようにする。 <p>「とっても大きな声が出ている。」 「ゆっくりと読んでいる。」 「声の大きさをかえている。」</p> <p>2 「ねこ、ねっこ」などの促音の読み方を学習する。</p>  <p>「へんしんBOX」で変身。</p> <p>「わあ、何が出てくるのかな。」 「おもしろい！」 「ちいさいつが入っている。」 「似ているけどちがう言葉になる。」</p>	<p>○全体の前で発表させる前に、少人数で練習させ自信をもたせる。 ★友達の音読をしっかり聞いて、上手だと思ふところを発表させる。 ★児童のよい例などを認めながら、上手な読み方の具体的な視点に気付かせる。 ◆積極的に音読しようとしている。 ◆友達の音読のよいところを見付け発表しようとする。</p> <p>★視覚に訴える楽しい教材(「へんしんBOX」)を工夫したり、「ねこ」「ねっこ」などの絵を提示したりして、促音への興味を促す。 ○「ねっこ」などの拍数を手をたたかせ理解させる。 ◆促音の読み方が拍をとりながら分かる。 ★黒板の絵や文字を見て、読み方が分かる。 ★発表している人の方を見る。 ★教師が促音の読み方の手本を示したり、みんなで声に出して読んだりすることを繰り返すことで、楽しく促音の入っている言葉を聞き分けることができる。</p>  <p>小さい「つ」を入れると、「ねこ」が「ねっこ」に、「まくら」が「まっくら」に変身。</p>
<p>3 「ねこ、ねっこ」などの促音の書き方を学習する。</p> <p>4 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>5 連絡帳に書き、担任の話を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書の文字を正しく書き写す。 ・担任から保護者に伝えたいこと(伝言)を聞く。 	<p>○ノートに「ねこ」「ねっこ」などを書かせる。 ○促音が、ノートのマス目のどこに入るか、注意して見させる。 ◆促音の書き方が分かり、ノートに書ける。 ★振り返り際のポイントを具体的に示すことで、どんなことを考えたらよいか分かるようにする。 ★話すときの約束を意識させて、発表させる。 ○毎日の習慣として、板書したことを連絡帳に正しく書かせ、時間割、宿題、連絡などの確認を行う。 ★黒板の文字をしっかり見させる。 ★担任の言ったことを家の人に正しく伝えられるよう、話す速さや大きさに配慮して伝える。</p>

<指導のポイント>

安心

- ・幼児期の遊びや活動を授業に取り入れる(具体物や視覚的なもの)
- ・ペアやグループでの学習など、自己を表出しやすい工夫

【主 協】

楽しさ

- ・小道具を使ったり、ゲーム性のある活動、手遊び
- ・身体を動かす活動・リズムに乗る、模倣遊び

【主 協 言】

成長

- ・気付き、興味・関心、主体的に学ぼうとする意欲、達成

【主 言】

○ 国語科の後に「手遊びをしよう」(5月中旬4校時)

楽しさ・安心 ↔ 成長

<単 元> 「ねこ、ねっこ」・促音の入った童歌を歌おう

<ねらい> ①促音の読み方と、書き方を理解する。

②促音の入った歌に親しむ。

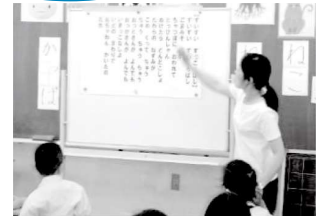
<学習活動> ○音読

○促音「っ」の読み方と書き方

○手遊びをする

<指導のポイント>

- 児童の集中力を考慮し、国語と学級活動を組み合わせる(本時の学習内容と関連した活動をする。音楽科と組み合わせることも可能)。
- 促音「っ」を学習した後、幼児教育で経験してきた「手遊び歌」(ずいずいずっころばし)をすることで、促音に親しみ、楽しく学習のまとめ(定着)が図れるようにする。
- 身体を動かして手遊び歌を行うことで、集中力と意欲を高める。
- 2人組のペアで話したり聞いたり伝え合ったりすることで、まだ自己を表出することが難しい児童にも、恥ずかしがらずに主体的・意欲的に学習ができる。



みんなで「ずいずいずっころばし」の歌詞を群読する。



歌を歌いながら手遊びをする。

○ 国語科の中で「鳴き声や動作をまねて体で表現しよう」(5月下旬4校時)

楽しさ・安心 ↔ 成長

<単 元> ひらがな「す」の練習・「がぎぐげご」のうた

<ねらい> ①ひらがな「す」の書き方がわかり、丁寧に書ける。

②場面の様子を思いうかべながら、リズムよく音読する。

<学習活動> ○ひらがな「す」の書き方、使い方

○「がぎぐげご」の音読

○鳴き声や動作を工夫して読む

○歌を歌う

<指導のポイント>

- 児童の集中力を考慮し、国語科の展開に身体表現を取り入れる。
- ひらがなの練習は、形を整えて書くためのポイントを板書で示し、よく見させ「1.2.3・・・」と一緒に唱えさせる。運筆はゆっくりと書かせ、形よく書いている箇所に丸を付けて励ます。
- 音読は口形に気を付けさせ、列ごと、班ごと、好きなところをたって読むなど、様々な形態で楽しく読ませる。繰り返し読むことで、話すことの基礎を培うようにする。
- 「がぎぐげご」の歌に出てくる動物の動作や鳴き声を工夫させ、よいものは取り上げ、全員でやってみさせる。
- 幼児期に慣れ親しんだ動物の模倣をさせることで、楽しく取り組める活動として、集中力や意欲を持続させる。



「ぼびぶべ ぼびぶべ ぼびぶべほ
かみのけ ぼさぼさ ぼっさぼさ」



○ 指導のポイント

- 動作化したり、ゲーム化したり・・・動的な活動の工夫をする。
 - ・5月になると急に暑い日が多くなります。運動をしっかりするなどすると4・5時間目は、疲れたり眠くなったりする児童もいます。座学だけでなく、動的な活動を計画することや興味・関心が高く学習意欲の継続が図れるような活動を計画しましょう。 ※3月まで午後の午睡(13時～15時の園が多い。)をしていた児童もいます。
- 児童との信頼関係を築き、児童一人一人に安心感や満足感をもたせる。
 - ・「見る、聞く・話す」ことなどのほか、「書くこと・読むこと」なども個人差は大きい傾向があります。個々の習熟の実態を把握し、個に応じた指導を工夫しましょう(一人一人に向き合う、課題ができれば様々な方法で認めるなど。)